

業種 (番号 記入)	5	1製造業 2建設業 3卸売業 4小売業 5飲食業 6サービス業 7その他	主な取扱 商品・製品等	地場の有機・無農薬栽培野菜や安心安全な肉、魚、自然無添加 の調味料で作るオーガニック料理。			
資本金	600万円	年間 売上高	5660万円	従業員 数	常時雇用 人 パート 6人 役員(法人) 2人 専従者 2人	創業 年月 (西暦)	2018年8月
指導日		主な指導項目					
3月19日(金)		事業概要のヒアリングと事業再構築補助金とその計画の作り方の説明					
3月23日(火)		具体的な実施案の整理とアドバイス					
月 日()							
指導 分類 (番号 記入)	1 9	4 11	16 13	1経営全般 2創業 3事業承継 4事業計画 5資金 6法律・特許等 7税務 8労務 9販路・取引 10開発・技術 11 IT・情報化 12生産・品質管理 13店舗・不動産 14記帳 15倒産防止 16その他(事業再構築補助金)			
相談 内容	A市とB市で飲食店2店舗を経営しているが、コロナ感染症の影響により売上が減少している。売上を回復させるために店頭でのテイクアウトやホームページを活用した通販を取り入れたい。今後の事業の進め方や考え方についての計画の立て方と、投資額を抑えるために補助金について説明を受けたい。						
相談時 にお ける 課題 ・問 題 点 等	<p>今後実施していきたい取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A市店での店頭のテラス化と持ち帰りや店頭販売 ・総菜やお菓子のHP活用の通信販売 ・売上管理のシステム化 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各取り組みの具体的内容 ・各取り組みに必要な設備や機械、テラス化などの外注費等の洗い出しと見積金額と納期等 ・売上を向上させるPR <p>惣菜等の通販を行うにあたっては食品製造の許可が必要で、厨房の設備等を許可に必要な仕様に合わせて改修が必要となる。</p>						

指導概要(指導日毎)

1回目(3月19日)

事業内容やコロナ感染症の影響などをヒアリングを行い、今後取り組みたい内容をうかがった。その内容としては、A市店の店頭を活用したテラス化やテイクアウト、そしてHP活用の通販ということだった。補助金活用もしたいということで、まだ公募要領は出ていないものの事業再構築補助金の対象になるであろうと思われたので、その準備をすることとした。そのために、これから準備することを以下のように説明した。

- ・実施したい3点について、どのような方法ですかオペレーションについても決める。
 - ・それぞれどこに経費がかかるのか、しっかり考えてモレがないようにし、見積もりも可能な限り取得して採択後になるべく変更がないようにする。また、発注から納期までの期間も確認する。
 - ・補助金の上限額に余裕があるからといって、余計なものは経費にあげない。
 - ・テイクアウトも通販もどうしたら集客力が向上するのかPR策も検討する。
 - ・新たな事業では収支計画も必要になるので、各取り組みについて主要なメニューを決め、その平均単価、見込客数の推移について計画することで売上高や原価の計算を行う。
 - ・店頭を含め店舗の改修をする際には、今のうちにオーナーの許可をもらっておく。
 - ・事業再構築補助金の申請では月上上の比較が必要になるので、2019年以降について税務申告書で月別売上高が記載されているか確認する。また、直近の決算以降の月別売上高をすぐ出せるように準備しておく。
- 上記についてまとめることで事業計画書になっていくことも伝え、次回までに検討しておくことを宿題とした。

2回目(3月23日)

申告書に月別売上高があることを確認し、以降の月別売上高も集計していることを確認した。

取り組み内容について、以下の検討やアドバイスを行った。

・通販

HPでの受注システムを取り入れる。受注してからのオペレーションとして、箱詰めや発送は誰がするのか、包材や搬送にはクール宅急便などを使うのか。箱詰め時に御礼メッセージや盛り付け例、他の商品案内チラシなどの同梱はしなくていいか？ HP受付で注文者のメールアドレスがわかるので、季節商品や新商品のメルマガ送信の許可を得るか？

製造はA市店の厨房を製造許可が得られるように改修するが、親戚の食品製造を行っている会社に場所と設備を借り、当社の人材を派遣して製造も行う予定とのことであった。そこで、店舗製造分と工場製造分でそれぞれ発送業務を行うと、1つの受注案件で両方の商品希望があった場合には作業が煩雑になるので、発送業務は工場に集約できないかを検討する。

その際、受注状況、発送管理を工場と社長やA市店で共有できるようなOA機器導入やシステム化が必要ではないか？ 発送用宛名ラベル、商品の賞味期限等のラベル貼り等もOA機器で効率化できないか、などを提案・検討した。

・テラス化とテイクアウト

A市店ではA市駅のロータリーに立地しており、どこまでテラスとして使えるのかを確認してもらうこととした。

テラス化部分は店にひさしをつけて雨天時でも対応できるようにしたいとの意向だが、ビニールシートなどの材料の違いで金額が大きく変わるので、見積もりをとってから検討することとした。テイクアウト用にレジの導入も検討しているなどで、店舗入り口が見づらくなったり、動線が悪くなるなどの懸念が出てきたとのことであった。まだ時間があるので、テイクアウト用の冷蔵ショーケースなど設備の設置場所や店内と店頭の従業員の配置や動線など総合的に考えるように助言した。

今後の課題・専門家の意見、総括等

C社長は前向きできちんと検討される人柄なので、何を検討してまとめればいいのかかわかれば自分でまとめられる力はあるように見受けられました。

こちらから取り組み内容についてイメージしたオペレーションを提案すると、前向きに検討してくれ、少しずつ実際にしなければならぬことがつかめてきているようです。

ただ、事業再構築補助金の指針の手引きを見ると、非常に複雑なのでこの補助金に即した事業計画ができるかが不安であり、課題といえます。